

読むことで意味をつくり出す

知識や情報を得たり、展開と結末を知ろうとしたりすることは、本を読む目的として大切です。しかし、もっと大切なことがあります。読んでいるあなた自身が頭の中で何をするのかということです。

文学的文章で、しっかり者だと思っていた登場人物が、ある場面で「宿題忘れちゃった。」と言ったら、「この人物が宿題を忘れるはずがない、何かおかしい。」という疑問が生まれます。ちよつと変だ、何があったのかと思いつきながら読み返して考えたことを、教室で出し合うと、他の人の意見に納得なっとくしたり、自分が読み落としたことに気づいたりして、もう少し注意深く読んで考えたくなるでしょう。

説明的文章でも、筆者の述べることに違和感いわかんを覚えたら、「おかしいのはどこか。」「どうしておかしいのか。」と考えてみましょう。そうすれば、自分がすでに知っていることと関連づけて考えたり、文章の中のどの言葉が大切なのか気づいたりすることができます。

意味とは、読者が言葉を読むことで疑問をもち、考えながらつくり出すものなのです。

10

5

